



タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	金 敬雄		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:F
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術 本質を見極めるための教養と学際性 協働的な問題探究 社会の改善につなげる創造性 市民としての主体的態度	20 % 20 % 30 % 20 % 10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>テーマ：中国文化理解</p> <p>我々があまり意識していない中で、日本社会は急激にグローバル化しているようだ。2019年1月時点で東京には約180の国と地域の人が住んでいたと言われている。東京では人手不足に悩む現場に外国人を派遣する企業も増えている。そして、日本のグローバル化は決して東京に限った話ではなく、北は北海道、南は沖縄県とまさに全国津々浦々に外国人が増加している。いまは製造業だけでなく、野菜作り、カキの養殖、カツオの一本釣りなども外国人の力で成り立っている状況である。日本政府は2019年4月から改正出入国管理法を施行し、外国人労働者の受入に門戸を開いている。今後より多くの外国人が日本に入ってくるものと思われる。法務省の発表によれば、令和元年6月末現在の在留外国人数は282万人である。そのうちに国籍・地域別では中国が一番多く、786,241人に上り、全体の27.8%を占めている。今後も中国人がさらに増加していくことが予想される。</p> <p>日中両国は一衣帯水の隣国であり、2000年に及び文化交流の歴史がある。そして、いまや世界第2、第3位の経済大国で、経済面での相互依存もますます高まり、それは国民生活に直結している。また、日中両国の善隣友好関係は双方の国益に資するばかりではなく、ひいてはアジアおよび世界の平和にも貢献できるものである。日中善隣友好関係を発展させていく上で、真の相互理解を図ることは不可欠である。そのために、偏った情報に翻弄されず、多面的に考察することが非常に大切である。本演習では日中比較の視点から中国文化について、みんなで共に調べ議論し、中国社会・中国文化への理解を深めていきたい。</p>		
単位認定基準	<p>出席状況、ゼミ発表およびゼミ討論への参加姿勢などを見るとともに、レポートについては、下記のような内容を確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、テーマと内容の整合性</li> <li>2、資料の収集状況</li> <li>3、資料についての分析状況</li> <li>4、全体の構成</li> <li>5、レポートの書式</li> </ol>		
授業計画	<p>この授業は、概ね以下のように予定している。ただし、受講生の状況などさまざまな要因で予定を調整することも予想されるので、この計画は一つの目安として考えている。</p> <p>この授業は学生による発表を中心とする。そのため、第3回以降の授業計画は、昨年度の学生発表のタイトルを例示しておく。</p> <p>第1回 前期レポートの総括(講義)</p> <p>第2回 レジューメ作成と演習発表の要領(講義)</p> <p>第3回 学生発表①「現代中国の少数民族問題」</p> <p>第4回 学生発表②「現代中国の人口問題」</p> <p>第5回 学生発表③「中国の社会保障制度問題」</p> <p>第6回 学生発表④「現代中国の格差問題」</p> <p>第7回 学生発表⑤「現代中国の農民工問題」</p> <p>第8回 学生発表⑥「中国のインターネット問題」</p> <p>第9回 学生発表⑦「中国の国際貢献——日本との比較を中心に」</p> <p>第10回 学生発表⑧「中国の水汚染問題」</p> <p>第11回 学生発表⑨「中国の廃棄物問題と大気汚染」</p> <p>第12回 学生発表⑩「尖閣諸島問題」</p>		

	第13回 学生発表⑪「靖国神社問題」 第14回 学生発表⑫「現代中国の反日感情」 第15回 学生発表⑬「日中関係と歴史認識問題」 第16回 全体のまとめ
教材・教科書	プリント配布を予定している。
参考図書	内山完造著『中国人の生活風景』東方選書 1979年 王雲海著『「権力社会」中国と「文化社会」日本』集英社 2006年 朔方南編訳『中国人の話』上・下 はまの出版 1997年 高橋哲哉著『靖国問題』筑摩書房 2005年 中嶋嶺雄著『日本人と中国人ここが大違い』ネスコ 1990年 孫崎亨著『日本の国境問題 尖閣・竹島・北方領土』筑摩書房 2011年 松本一男著『中国人と日本人』サイマル出版会 1987年
参考URL	
授業以外の学習	最近、新聞などで頻繁に中国のことを取りあげている。中国についての最新情報に関心を持ってほしい。
成績評価の方法	成績評価はゼミへの参加姿勢、レポート、ゼミ発表などによって行う。
成績評価の基準	単位認定基準への到達度に基づいて評価する。具体的には下記の通りである。 S すべての項目においてきわめて優れている(90～100点) A すべての項目において優れている(80～89) B 望ましい水準に達している(70～79点) C 望ましい水準には達していないが、不合格ではない(60～69) F 半分以上の項目で望ましい水準に達していない(0～59)
オフィスアワー	火曜日15:00～17:00の時間帯に質問・相談に応じる。ただし、事前にメールまたは電話で連絡すること。 上記時間帯以外でも日程調整の上、適宜対応する。また、内容によっては、メールによる連絡も受け付ける。
授業改善・工夫	レポートの作成指導では、見本を提示しながら、作成要領を紹介する。 ゼミ発表については、レジメの見本を提示し、模擬発表をしながら、発表要領を紹介する。
留意点・注意事項	
教員の実務経験の有無	

